

小中学校の教育現場に届く教職員 対象の「やさしい日本語」研修会



キーワード

やさしい日本語・外国人児童生徒・外国人の子どもの保護者・小中学校の教職員

○取り組んだきっかけ

浜松市の公立小中学校に在籍する外国籍児童生徒数は、2015年以降増加しており、2021年には1864人と過去最高となるとともに、2023年度には26国籍と多国籍化が続いている。市教育委員会は、バイリンガル支援者を小中学校に派遣するなど支援体制を整えているが、少数しか在籍しない言語に対応できる支援者の確保が難しくなっている。そのため、学校への「やさしい日本語」普及の必要性が生じ、坂本に『学校版やさしい日本語活用のための手引き～保護者への学校の便り・成績表～』の執筆とアドバイザー就任の依頼があった。完成後の2020年から毎年教育委員会との共同にて小中学校の教職員を対象とするやさしい日本語研修会を実施している。

○活動の目的

小中学校に在籍する外国人児童生徒（日本語日本文化以外の多様な言語文化背景を有す子ども以外に外国にルーツを持つ日本国籍の子どもも含む）は日本語力が不十分なことから、日本人とのコミュニケーションに躓いたり教科学習に後れをとることが多い。その対応策の一つとして教職員のやさしい日本語への意識涵養と、運用力養成をすることが目的の一つである。二つ目の目的は、学校発出の保護者向け文書や成績表を、やさしい日本語で作成できるよう、そのポイントを指導することである。

○具体的な内容

研修会では、教育委員会により、浜松市内の外国人児童生徒に関して、その増加ぶりや国籍傾向、抱える問題点などの説明がなされる。その後、坂本から、まず、やさしい日本語の概要とその必要性について講義を行う。阪神淡路大震災では言語的弱者の外国人の被害のほうが甚大であったこと、国際語と言われる英語の読みが理解できる外国人は20%程度である点（平成28年静岡県調べ）、小学校1年生と初級修了レベルの外国人では、圧倒的に後者の語彙量が少なくとされることなどの紹介がなされ、それを補うやさしい日本語の存在に気付いてもらう。次に、「学校版『やさしい日本語』活用のための手引き」に関して詳細に説明が行われる。浜松市内の学校関係者がアクセス可能な、教職員向け学校グループウェアに格納された同手引きを、教育や保護者への円滑な情報伝達に生かしてもらうための促しである。



令和3年8月4日



令和2年6月9日

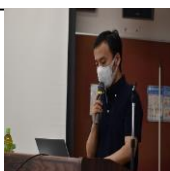


令和3年7月27日

教員名 坂本 勝信

所属学部・学科 外国語学部・GC学科

職位 教授



連携先

浜松市教育委員会